

⑤【複数年度(1年目)】安全な通学空間管理のDX実験(長野県伊那市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ 自転車通学路の危険箇所をデジタル地図上でデータベースとして構築し、危険箇所の抽出と改良事業実施にいたるプロセスの迅速化を検証する。
- ・ 自転車通学路の安全性にかかるDXの検討は事例が少ないと考えられ、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取り組みとなること。

2. 今年度の実験内容、実験結果

①データベースの構築

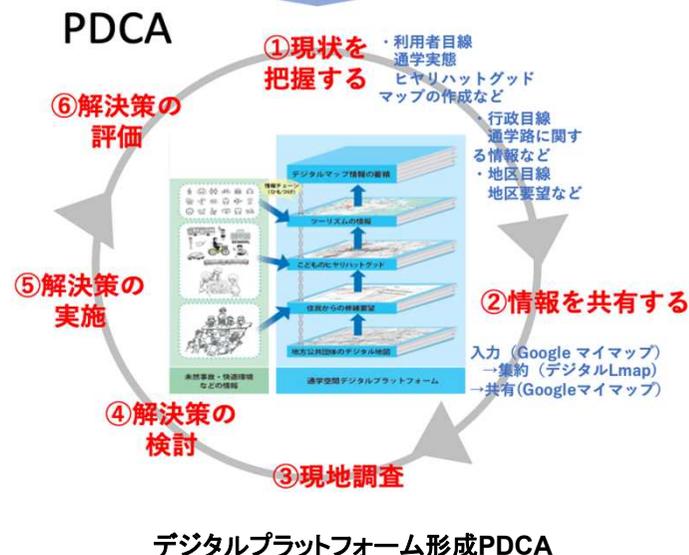
- ⇒利用者目線:ヒヤリハット・グッド・マップを作成
- ⇒地区目線:危険性の高い地点をデジタルマップ化
- ⇒行政目線:事故データ、交通データ等をデジタルマップ化

②データベースの活用法検証

- ⇒危険箇所が重なる位置を関係者と共有し、応急対策が可能な3箇所を抽出し、改善策を検討

③合意形成による解決策の効果検証

- ⇒利用者目線:アンケート、リアルタイムモニタリングによる評価とりまとめ中
- ⇒地区目線:データベースを共有し、より現実的な対応が可能
- ⇒行政目線:「アドバイスミラーの管理」について、作業時間半減



3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
データベースの構築	入力のデジタル化、挙動センシング、デジタルマップの更新
データベースの活用法検証	ソフト対策の案出・実施、ハード対策の案出
合意形成による解決策の効果検証	中学生にアンケート調査、デジタルプラットフォームの効果検証

⑤【複数年度(1年目)】安全な通学空間管理のDX実験(長野県伊那市)

4. 今後のスケジュール

- 令和6年4月～令和7年1月 実験実施
- 令和7年2月 効果分析、評価、とりまとめ

5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
社会実験のフォーカスはなにか。デジタル化は手間(の削減)ばかりでなく情報更新が簡単になり、情報の新しさが評価できるだろう。一方で上級生から下級生への教え(伝承)がデジタル化でなくならないように位置付けること。地域住民へ展開し、全域で取り組んでほしい。	デジタル入力によるヒヤリハットグッドマップの見える化し、信号機やミラーなどのデータを重ね合わせ、どこから対策検討ができるか議論できる仕組みづくりである。加えて自転車に挙動の傾向を測定するデバイスをつけて危険感覚を数値化したい。データの質の向上も目指す。
人(中学生)の命を守るため路面表示で矢羽根をつけると良い。	協議会調査分析部会で現地視察を行い対策する。
データは学校以外に警察などが地元協議に使っていくので情報の見せ方が重要になる。横展開を目指してほしい。 国道事務所や県・市・警察・学校が入る協議会は貴重なのでこれを機に危ないと思うところは要望を出して対策すべき。	ゾーン30プラスについては地域の要望が出てきており、これからと考えている。 市全域でできるように進め、全国展開を行っていきたい。
中殿島の信号サイクルを警察に相談すると良い。みやま坂の中殿島信号手前で中学生が自転車を降りるのは危険である。	協議会調査分析部会で現地視察を行い対策する。

6. 評価

- ・ 順調に実験が進んでいる。
- ・ 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。